



主催：広島大学大学院総合科学研究科、陸域環境研究会
総合科学研究科 21 世紀科学プロジェクト

ワークショップ 流域環境平和学の創成 ～都市-農村連関圏での展望～



日時：9月4日(金) 15:00～18:00

場所：広島大学大学院総合科学研究科 第一会議室

スコープ：

都市と農村は人間と物質の移動という関係で密接に結びついている。しかし、昨今はグローバリゼーションのためその関係は希薄になっている。結果として、農村も都市も自然および人間環境の劣化が進み、各種貴重な資源の喪失へとつながっていく。こういった負の連鎖を断ち切り、地域の人々が安心安全に暮らせる社会を創成していくためには、総合的な環境適応型システムを構築していくことが求められている。ここでは、以上のようにグローバリゼーションの現状を受け入れつつも、それに適応する流域スケールでの安心型社会システムを構築するというを、流域環境平和学と定義したい。

本ワークショップでは、現在の問題点を様々な角度から掘り下げるとともに、総合的な適応システムに関するシーズを展望することを目的とする。流域というスケールで地球規模のストレスとの関係を踏まえつつ、都市と農村の関係を考慮していく。広島で開催ということで、広島や周辺の中国山地に焦点をあてつつも、都市と農村とのつながりのあるアジアの地域についても、比較して議論したい。今回は、多様な分野のシーズを俯瞰することを目的としているため、1人10分と短かめの話題提供を多数用意することとした。

プログラム

15:00～15:10 はじめに(挨拶) 総合科学研究科長 吉田光演

【総論】 15:10～15:30 司会：関矢寛史

流域発の新環境平和学とはどういうイメージか 小野寺真一

ヒロシマ平和学と流域システム 布川 弘

【各論1】 15:30～16:30 司会：長坂 格

中国地方における木質バイオマス利用とエネルギー自立 佐藤高晴

エネルギーにおける技術革新 市川貴之

農業流域における水-物質再利用システム 金 広哲(総合科学研究科 PD) (英語)

高齢化・耕作放棄の流域水物質循環影響 清水裕太(学振 PD (国研)農研機構 近中四農研セ)

流域社会システムとしての都市と農村のつながり 西村 雄郎

少子高齢社会における自然再生・野生生物との共生 浅野 敏久

休憩 10分

【各論2】 16:40～17:20 司会：浅野 敏久

東南アジアからの移民と農村コミュニティ, 地域資源管理 長坂 格

山村への移民と地元住民との間のミス・コミュニケーション問題 町田 章

過疎化・過密化社会における諸問題の行動科学的視点 岩永 誠

うつ不安と環境要因 斎藤祐見子

【総合討論】 17:20～18:00 司会：小野寺真一

【コメント】金 科哲(岡山大学 教授)「過疎問題の日本-韓国比較・ベトナム研究の視点から」

17:50～18:00 おわりに(挨拶) 総合科学研究科 副研究科長 山崎 岳